

# サプライチェーンへの働きかけ

## 活動・実績

### スコープ1、2、3への対応

KDDIは、製品やサービスの製造、使用、廃棄・リサイクル<sup>(注1)</sup>にいたるすべての段階を通して排出されるCO<sub>2</sub>排出量を算出することで、環境負荷を評価するLCA(ライフサイクルアセスメント)に定期的に取り組み、環境負荷の定量的な把握・開示に努めています。近年、事業者のサプライチェーン排出量の見える化(把握、管理や情報開示)の動きが活発化しており、その必要性から、ガイドライン<sup>(注2)</sup>が制定されています。これらの各種ガイドラインにもとづき、2012年度分より、サプライチェーンの温室効果ガス排出量を算出しています。2015年度の事業活動においては、温室効果ガス排出量(スコープ1、2、3)全体に占めるスコープ3の割合は80.36%、各カテゴリー別では、前年度に比べて減少はしていますが、引き続きカテゴリー1とカテゴリー2の排出量が占める割合が大きくなっています。今後も重要なカテゴリーとして継続的に分析を行い、排出量削減への取り組みを推進していきます。スコープ1、2の算定結果については、ロイド レジスター クオリティ アシュアランス リミテッドによる独立した第三者保証を受けています。

また、スコープ3の算定結果については、信頼性向上のために株式会社早稲田環境研究所による第三者検証を受けました。

今後もスコープ1,2,3のCO<sub>2</sub>排出量を把握し、環境負荷低減に取り組んでいきます。

注1 廃棄・リサイクル時の環境負荷は、製造時の環境負荷に含む

注2 グリーン・バリューチェーンプラットフォーム



スコープ1、2 2014年度温室効果ガス排出量  
保証証明書

[Link](#) Page\_91



スコープ3 温室効果ガス排出量検証報告書

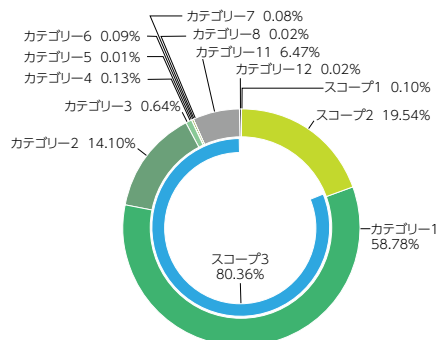
[Link](#) Page\_92

### CO<sub>2</sub>排出量と全体に占める割合

カテゴリー	2012年度		2013年度		2014年度		2015年度			
	CO <sub>2</sub> 排出量	%	CO <sub>2</sub> 排出量	%	CO <sub>2</sub> 排出量	%	CO <sub>2</sub> 排出量	%		
スコープ1	直接排出	2,857	0.05	3,505	0.06	4,680	0.08	5,344	0.10	
スコープ2	エネルギー起源の間接排出	1,046,565	20.08	935,996	16.08	1,039,677	17.97	1,076,209	19.54	
スコープ3	カテゴリー1	購入した製品・サービス	2,733,364	52.45	3,343,506	57.44	3,306,863	57.16	3,236,999	58.78
	カテゴリー2	資本財	952,799	18.28	1,093,184	18.78	1,053,203	18.21	776,711	14.10
	カテゴリー3	スコープ1、2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	34,439	0.66	31,480	0.54	34,967	0.60	35,379	0.64
	カテゴリー4	輸送、配送(上流)	8,261	0.16	4,994	0.09	7,003	0.12	7,370	0.13
	カテゴリー5	事業から出る廃棄物	921	0.02	588	0.01	500	0.01	681	0.01
	カテゴリー6	出張	5,154	0.10	5,080	0.09	4,590	0.08	4,831	0.09
	カテゴリー7	雇用者の通勤	3,497	0.07	2,671	0.05	5,031	0.09	4,574	0.08
	カテゴリー8	リース資産(上流)	1,751	0.03	1,519	0.03	1,367	0.02	1,309	0.02
	カテゴリー9	輸送、配送(下流)	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	カテゴリー10	販売した製品の加工	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	カテゴリー11	販売した製品の使用	419,922	8.06	397,324	6.83	325,364	5.62	356,359	6.47
	カテゴリー12	販売した製品の廃棄	1,451	0.03	819	0.01	1,606	0.03	886	0.02
	カテゴリー13	リース資産(下流)	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
カテゴリー14	フランチャイズ	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	
カテゴリー15	投資	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	
TOTAL		4,161,559	79.86	4,881,165	83.86	4,740,493	81.95	4,425,098	80.36	

注 CO<sub>2</sub>排出量算出について、電力消費量は換算係数0.555kg-CO<sub>2</sub>/kWhを、燃料消費量は「地球温暖化対策の推進に関する法律」(温対法)にもとづく温室効果ガスの算出・報告・公表制度において適用される排出係数を使用

### カテゴリーごとCO<sub>2</sub>排出比率 (2015年度)



## サプライチェーンへの働きかけ

### 体制

### LCA(ライフサイクルアセスメント)の取り組み

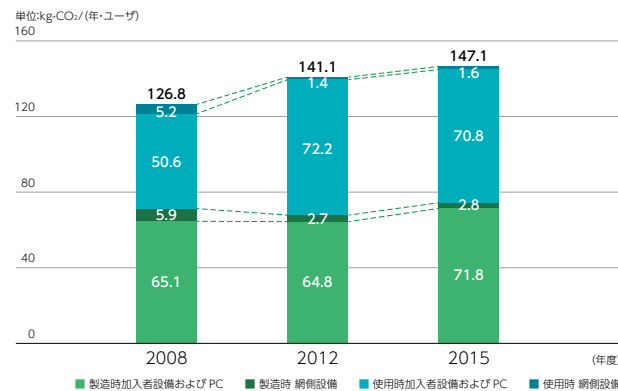
KDDIは、製品やサービスの製造、使用、廃棄・リサイクル<sup>(注)</sup>にいたるすべての段階を通して排出されるCO<sub>2</sub>排出量を算出することで環境負荷を評価するLCA(ライフサイクルアセスメント)に取り組み、環境負荷の定量的な把握・開示に努めています。

2008年度、2012年度に引き続き、2015年度も「auひかり」および「au」のLCAに取り組みました。(株式会社KDDI総研算出)

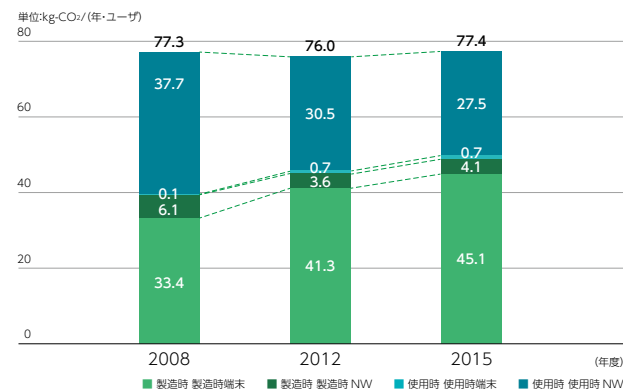
「auひかり」の環境負荷は、PCの製造価額や消費電力、ネットワークの設備更改の影響により微増しました。また、「au」の環境負荷は基地局の小型省電力化推進にともない使用時の負荷が減少した一方、スマートフォンの普及にともない製造時の負荷が増加し、全体としては微増となりました。今後とも、同サービスのLCAに定期的に取り組み予定です。

注 廃棄、リサイクル時の環境負荷は、製造時の環境負荷に含む

### auひかりの環境負荷




### auの環境負荷




### 方針・体制

### グリーン調達への推進

KDDIは、2010年4月、さらなる環境配慮製品の購入を推進するため「KDDIグリーン調達ガイドライン」を策定し、省エネルギー性能の高い事業用設備(通信機器、空調、電源設備)を調達しています。本ガイドラインでは29種の機器について基準を設定、うち15種の機器については「ICT分野におけるエコロジーガイドライン協議会」が規定するガイドラインに準拠、14種の機器については、国内外の公的基準(トップランナー基準、ATIS[米]、CoC[欧州]など)を参考にKDDI独自の基準を設定しています。また2015年度には、お取引先さまに対して「CSR調達アンケート」を実施、ほぼ100%のお取引先さまから回答を得ました。

 地球環境の保全  
ICT分野におけるエコロジーガイドライン協議会への参画  
[Link](#) Page\_9

 KDDIグリーン調達ガイドライン  
[Link](#) Website

### 活動・実績

### サプライヤーとの協働

KDDIは、環境負荷の軽減を目指し基地局のさらなる軽量化および省電力化などに取り組んでいます。2014年度にはサプライヤーである基地局設備納入業者との協働により、重量および消費電力量の少ない設備の開発を行い(従来型の基地局設備と比較し、重量で約45%、消費電力量で約22%の削減)、2015年度は当設備の導入を引き続き進めることで環境負荷の軽減に取り組んでいます。

今後も、サプライヤーへの働きかけを推進するなど、サプライヤーとともに環境負荷低減への取り組みを行ってまいります。